

# 会報 東京いいで会

平成17年3月発行

2005  
第3号



四方の山皚々として居りながら  
最上川に降る三月の雨  
斎藤 茂吉(白き山)より

## 「東京いいで会」会報発行に寄せて

東京飯豊会 会長 谷本 亮司 (椿出身)

会員の皆様お元気ですか。

東京飯豊会も皆様の温かいご協力に支えられ、今年は歴史有る44回目の総会を迎える事が出来ました。

また、皆様との大切なかけ橋を目指し発刊致しました「東京いいで会」会報も会員皆様からの貴重な年会費のご支援に支えられ、第3号の会報をお届けする事ができました。改めて厚くお礼申し上げますと共に、今後も温かいご支援を賜りたくお願い申し上げます。

内容は会員皆様の身近なお声と、ふるさと飯豊町のご協力を頂き、不慣れな広報部を軸に大奮闘して作成致しました。不備な点はお許しを願い、これからも皆様に「親しみのある会報」を心がけ頑張ってお参ります。

東京飯豊会も来年は節目の45周年を迎え、多彩な記念行事等を計画して参ります。記念行事に関し、広く会員の皆様からアイデア等のご希望を募りたく、忌憚のないご意見等を当会の事務局・広報部までお寄せください。

春とは申しましても三寒四温の続く季節です。ご家族皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

# ふるさと夜より

◆置賜農業高校飯豊分校生が  
日本学校農業クラブ全国大会  
で最優秀賞に輝く

## 全国制覇!!

置農飯豊分校生が、十月十九  
〜二十日、神奈川県立県民ホー  
ルで開催された、第五十五回日  
本学校農業クラブ全国大会に東  
北ブロック代表として出場し、  
プロジェクト発表「文化・生活」  
の部で、最優秀賞および文部科  
学大臣奨励賞を受賞しました。  
発表内容は、次のとおりです。

置農飯豊分校生は、米の消費  
拡大を目指し、玄米ケーキを作  
り、地元の保育園に届けている。  
しかし、卵・小麦アレルギー体  
質のため、食べられないという  
子どもがいるという現状を知り、  
「卵・小麦を使わないケーキを  
作ろう」と研究に取り組んだ。  
六ヶ月間試作を繰り返し、つい  
に「アレルゲン除去ケーキ」を

完成させた。また、紙芝居「た  
つやくんのおべんとう」を自作  
し、発表することにより、多く  
の方にアレルギーについて関心  
を高める機会となった。さらに  
ケーキの試食会やフォーラム、  
地元のお菓子屋に、アレルギー  
対応コーナーの設置など実現。  
今後は、バリエーション豊富  
な代替え食品を開発し、アレル  
ギーを起こさない環境作りのた  
めに活動を続けたい、と生徒た  
ちの意気込みは強い。

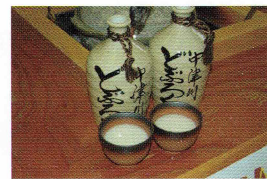
## ◆どぶろく特区

### 一社が酒造免許を取得

町では「どぶろく」を冬季観光  
の目玉にしようと「東洋のアル  
カディア郷再生特区」として申  
請し、平成十六年三月二十四日  
に特区の認定を受けました。  
「緑のふるさと公社（白川荘・

フォレストいいで）」と「いい  
で旅館」の二社は、県工業技術  
センターへ社員を派遣し、技術  
研修を行い、酒造免許が交付さ  
れました。

どぶろくは、十  
一月から五月まで  
、緑のふるさと公  
社またはいいで旅  
館で振る舞われま  
す。



## ◆ISO14001の認証取得

### 環境行政の普及を目指す

飯豊町（役場や保育施設など）  
が九月二十四日付けで、ISO  
14001を認証取得しました。  
これは、まちづくりを確かなも  
のとするために、ISO140  
01環境マネジメントシステ  
ムの運用をとおして、美しい景観  
を保全し、自然と共生した暮ら  
しや、資源・エネルギーなどの  
環境と農林業の結びつきを活か  
した産業興しによる、活力ある  
まちづくりを目指し、取り組ま  
れたもの。町では平成十五年秋  
から認証に向けた準備を進めて  
きました。

認定証の有効期間は平成十六  
年九月二十四日から平成十九年

九月二十三日までの三年間。以  
降三年に一回の更新となります。  
認定されてからも毎年一回、定  
期審査が行われます。

## ◆第二小学校改築

### 温もりを感じる新校舎に

町立第二小学校は、昭和四十  
年からの歴史ある学校でしたが、  
老朽化に伴い建設工事が開始さ  
れました。木造一部鉄筋コンク  
リート造りの二階建てで、延べ  
床面積は三千五十平方メートル、  
総事業費は約九億三千万円が見  
込まれています。エコスクール  
として、太陽光発電や木質ペレ  
ットのストーブを設置したり、  
地元の木材をふ  
んだんに取り入  
れ、温かみのあ  
る学校として改  
築されます。現  
在児童たちは、  
体育館を学年ご  
とに区切り、新  
校舎の完成を待  
ち望みながら勉  
強しています。



▲完成予想図

## 中津川山村留学

手塚 久雄 (萩生出身)

私達東京飯豊会に中津川山村留学運営委員会から熱心なお誘いがあり、昨年3月開催された東京飯豊会総会で説明頂き、その後桶川市に紹介する機会を得て、市長さんはじめ市関連部署のご協力を頂き、且つ市職員有志がプライベートで飯豊町の下見にまで行って頂いた熱の入れ方で、昨年7月、3泊4日の短期留学実行に至ったものです。私も地区趣味の会等を通じPRし、結果的に申し込みが定員を大幅に上回る盛況振りであったとお聞きしました。飯豊町にとっては初の試みであり、その大変なご苦労ぶりが、後日埼玉県産業文化センターで開催された「山村留学親子の集い」でビデオの収録から伺えました。私達が育った飯豊町の美しい自然の中で、時代を越えて都会の子供達が

元気に飛び回る姿に私達の幼年時代を重ね合わせ、大変感動を覚えました。

参加された多くのご父兄から感謝とお礼のお言葉も頂戴し、来年はぜひ親子で留学したい？との希望もありました。このような素晴らしい企画を実行して頂いた中津川山村留学運営委員会並びに飯豊町の皆様に改めて厚く感謝申し上げます。

一方で桶川市観光部署でも飯豊町の観光及び特産品等にも大変興味を示して頂いており、昨年の11月私達の町にある『ふるさと・べにばな館』で開催された「桶川全国ふるさと祭り」に初参加、飯豊町から商工観光課の舟山課長さんをはじめとするスタッフの方々が、ハッピー姿で『いも煮会』の大鍋と特産品等の展示販売に大奮闘、ギャラリーでは中津川山村留学のPRを含めた写真展、飯豊町の紹介ビデオ放映と大好評でした。

## 東京飯豊会会員の皆様へ

中津川山村留学運営委員会  
委員長 鈴木 るみ

初春の候、会員の皆様に置かれましては、益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

さて、私たちが、昨年暮れの東京飯豊会役員会の席で、山村留学についてお願いに参上してから早や1年が経ちました。そして、3月東京飯豊会総会では貴重な時間を割いていただき、皆様からの暖かい励ましをいただき、頑張らなくてはと気を引き締め直したことを昨日のこのように思い出されます。

総会の翌日には事務局・手塚さんのご紹介で埼玉県桶川市に伺い、市役所の担当の方々から暖かい対応をしていただき、中津川短期留学について広く紹介していただくことになりました。

また、埼玉県川口市につきましては、縁あって埼玉県蕨市から中津川に嫁がれました方の紹介で、募集を行うことができました。このほかに、皆様から千葉県流山市や埼玉県所沢市の方もご紹介いただきましたが、まだ始まったばかりで募集の体制等が整うまではあまり手を広げないようにしようと話し合いがもたれ、お断りする状況にいた

りました。このことにつきましては改めて感謝とお詫びを申し上げます。

この結果、平成16年度は川口市と桶川市を中心に募集活動を実施し、7月には84名もの応募をいただきました。この中から30名を抽選し、7月23日から26日までの3泊4日で短期留学を実施することができました。

都会の子供たちにとっては、見るものすべてが新鮮に映り、特に真夏に雪遊びが体験できる『S NOWえっぐフェスタ』は大変好評でありました。これらのおかげで、来年度の長期留学の申し込みも数名ほどありまして、当初の目的が達成できると胸をなでおろしているところです。

ここまで曲がりなりにも事業が進めてこられたのも、皆様の暖かいご支援ご協力のおかげとあらためて深く感謝申し上げます。今後ますます頑張っていきたいと思えます。

末筆ながら、東京飯豊会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、御礼に代えさせていただきます。



## 思いやりと感謝をもって

井上 ミエ子 (中津川出身)

毎日の様に暗いニュースに心が痛むばかりです。10月26日のテレビ番組に「おひとり様」と言う見出しがありました。予想しただけの事ですが、今〈一人で生きたい、外部との接点を避け、気ままに生きることが自分の本当の生き方〉と主張する人達が実際多くなって来たように感じるこの頃です。

去年八月こんな事が有りました。私の住んでいる所はまだ開発は進まず、緑豊かな所ですが、少し入ると新しい分譲地に家々が建ち、見知らぬ人達ばかりです。

八月、日曜日の事、一人の若い方が私の目の前で自分の飲んだジュースの空き缶をぼいと捨てて歩いて行くのです。とっさに「ちょっと待って、この空き缶捨てたのおばさん見てたよ。拾ってちゃんと捨てる場所をお願いします」と「うるせいなこのくそババー」と言って走り去りました。その晩、主人に話したら「仕返しされたらどうする

んだ」そうか、ドキリとしたものの、いや許せない、言わなきゃだめだ。と思いながらあの言葉が悔しい。ババーとは。しかし考えてみれば本当に『ババーだよな』とちよっぴり苦笑いしました。こんな事があってから二日目の朝、何事も無かったように若者が通りました。『おはよう』と声をかけるとキョトンとした顔で返事は無かった。三日目の朝おなじように挨拶をすると“ピョコタン”と頭を下げ小さな声で挨拶が返って来たのです。本当にホットしました。これでわたしの身の安全も良し。ところが、偶然にも私と趣味を同じにしているとてもやさしい方のお孫さんだったのです。当然この事は言うわけがありません。色々大切な事を教えて下さる立派な方です。私の趣味も30年続き、これも主人には心から感謝をしています。そして、幅広くお付き合いさせて頂いている方々に、愛情と思いやりを忘れずにこれからも命の続く限り頑張りたいと思っています。決して1人では生きられるものではないこと、いつも誰かの力をお借りしていること、そんな思っている今の私です。

## お手紙

森 博子 (添川出身)

期待に胸の高鳴りを覚えながらダンボールの箱を開ける昼下がり、ふる里の匂いととも顔が綻びる。

母が丹精込めた野菜達が顔をのぞかせる。

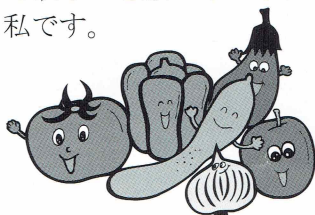
少し曲がったキュウリに、地元に行かなければ食べられない丸ナス等次から次へと顔を出す。何種類もの野菜、まるで宝箱をのぞいたようなそのダンボールには、愛情と思いやりと飯豊の空気が目一杯に詰め込まれている。スーパーに走ればいつでも手に入れる事の出来る野菜でも、はるばる旅をしてきたこれらには格別に味が隠れている。このナスはどのようにして食べようかな！

キュウリは、トマトは、としばし野菜たちと無言の会話をする。ふる里と結ばれる時間だ。

空と水と太陽に景色となつかしい思い出の数々と、鮮明に脳裏を駆け巡る、郷愁を覚える時間です。

ずっと変わることなく時を刻んで、いつでも温かく迎えてくれるふる里は、かけがえのない心の拠り所として大きな支えです。

今でもそしてこれからもいつまでも変わらないふる里であり続けて欲しいと願いながらダンボールの箱を見つめる私です。



## 東京飯豊会・懇親会に思いを馳せて

幹事長 渡部 志郎 (中出身)

都合により使用会場を一新し、今回より新会場の「ホテル ラングウッド」の2F鳳凰の間において、第43回東京飯豊会総会の新会場はJR日暮里駅に近く申し分のないところです。

第1部の総会は、斉藤町長様よりご挨拶を頂き、中津川地区の山村留学の取り組みを、責任者である鈴木のみ様より説明がありました。

第2部の懇親会は、華やかいイベントで幕開けでした。今回は、故郷飯豊町中津川が育んだ演歌歌手“祭 都さん”《まつりみやこ》の力強く華やかな歌謡ショーを堪能しました。

会場内では、方々で握手や写真に納まる人々。尽きること無い昔ばなしに花を咲かせました。

その後の抽選会は、町長賞・会長賞と各賞の当選に一喜一憂し、和やかなうちに懇親会もお開きとなり、余韻を残し来年への夢を膨らませそれぞれ家路に着きました。

久しぶりに会えた同級生や知人同士が場を代え盛り上げる、こんな橋渡しの役もこの総会にあると思っています。多くの皆さんの橋渡し役になり、『来て良かった・ああ楽しかった・来年も』と言って頂きたいと、役員一同心よりもてなして参りました。

皆様一人一人のお力を借りながら、我がふるさと会が益々発展する事を念願しております。

## わたしの財産

小川 悦男 (樺出身)

故郷を後にして上京、昭和16年生まれ私が、35年間勤務した会社を定年退職し、3年目を迎えた。世の中不景気でリストラ等叫ばれている昨今、囑託として会社に残ることになり、各地を飛び廻って働いている。建築一筋に取り組んできた甲斐あり、営業した顧客が数えきれない。

「人と人との出会いを大切に」をモットーに取り組んで参りました。政治家、評論家、弁護士、医師、芸能人等々多くの方々との出会いをいただい

た。仕事も名指しでご紹介をいただける、本当にうれしく思う。

お客様の立場に立って取り組んで来た結果が、この様に結びついたもので、今では設計から工事まで出来る限りお客様に接し、工事の完成まで、自分の目で確認している。体がいくつ有っても足りない状況です。

そんな中、昭和32年卒業の中学校同級会の案内状が来た。すばらしい仲間達と年に何回も一堂に会し、楽しい一時を過ごしている。

私には、友人・知人が数多く、掛け替えのない財産です。

## 本籍地・山形県飯豊町

新野 善行 (添川出身)

娘が10月に嫁いだ後、パスポートを申請すると言うので、私の期限切れのパスポートの更新と、家内の申請も一緒にした。自動車免許証もそうだが、本籍地の記載が必要になる。私の本籍地は飯豊町、と言う事で家族全員飯豊町のまま。

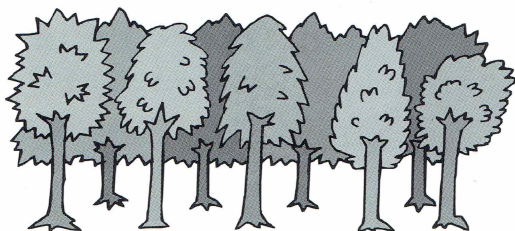
上京当時は江戸川区、結婚して千葉県船橋市に新居を構え、6年後に同じ市内で転居、12年後に千葉県印西市に移り住み現在に至っている。帰省した折には、子供達と白川の中洲で遊ぶのを楽しみにしていた。水浴びをしたり、石ころを拾ったり時間を忘れるほどであった。子供の頃、仲良し3人組で日中一日白川の中洲で遊んでも、飽きることは無かった。

やはりここが“私の背骨”を作ってくれた場所だなーと今でも強く感じる。

以前、アレックス・ヘンリーの小説『ルーツ』を読んで感動した。主人公のクンタは、アフリカからアメリカに奴隷として連れてこられた。クンタの末裔が自分達の先祖の地を探し出す物語である。

本籍地は、番地さえあればどこに定めても良いらしい。忘れかけた地名や、まして行ったことも無い所番地より、覚え易い所を本籍地にしている人もいるようだ。

しかし、私はクンタの生まれ故郷がガンビア川の畔だったように、最上川の源流である白川に育まれた故郷を誇りに、何時までも飯豊町を本籍地としたいと思っている。



## ふる里

二瓶 文夫 (添川出身)

子供達が幼かった頃、年に一度のお盆の帰省。一年ぶりの懐かしい父母、兄弟の顔。

変わらぬ山河、今はそれも懐かしく・・・

母が四年前、父が一年前に他界し、ここ数年故郷に帰郷する都度思うことは・・・

故郷はだん々遠くなりにつけり

故郷は遠くにありて思うもの、と感じる今日この頃です。故郷を後にして早三十数年・・・

山あり、谷ありの人生でしたが、現在は子供達も独立し、孫にも恵まれ、妻と猫二人(匹)四人で面白おかしく過ごしている毎日です。

数年前、ふる里にて同級会のおり、ともに東京飯豊会に誘われ参加させて頂いています。飯豊会の役員の皆様のご苦勞に感謝致します。

## 感謝する気持ちを大切に

中根 友利子 (黒澤出身)

お盆には、毎年帰省しています。これまでは、子供たちも一緒に帰っていましたが、今年は主人と2人でした。子供たち2人も「成人式」を終え、それぞれに忙しくなって帰りませんでした。

子供達は2人とも郷里の同じ病院で産声を上げました。病院の方々、近所の方々、兄夫婦、父母らの皆さんに『かわいいね・よかったね』と祝福されながら生まれ育ってきました。

帰省すると毎年「いつ帰ってきた・おおきくなったなあ」「ゆっくりしていけよ」と声をかけて下さいました。そんな温かい雰囲気がとてもうれしく思っていました。

今では、一人で大きくなった様な気である子供達ですが、生まれた時から温かく見守ってくれていた方々への感謝を忘れずに、自分の人生を力強く歩んでいってほしいと思うこの頃です。

## 役員会・親睦旅行

佐原 利博 (小白川出身)

ある日の役員会で、親睦旅行の話がでました。

これから先、会の発展を考えると役員が先ず団結しなくてはと思うのです。

ここ数年コミュニケーションが足りないと思っていた所でした。それには、安い経費・景色の良い所・・・と言う事で「小江戸川越」になり、宿泊場所として国民年金保養センター『むさし野』と言う所に決まりました。私達は、車で谷本会長、伯父(元会長 舟山繁太郎)と一緒に現地に着きました。当日は天気にも恵まれました。

現地に着き時間はたっぷり、「伊佐沼」のまわ

りをぐるぐる。田舎風で景色の良い所。春になると桜が咲いて良い所ではないでしょうか。保養センター『むさし野』の近くに旧民家渡邊家があり、そこへ私達はぶらりと入りました。

そこには、昔の足踏み式の脱穀機、除草機、臼、杵等が展示して他には、ベイ駒、羽子板、お手玉等懐かしいおもちゃもありました。管理人のおばちゃんと意気投合し、昔の話に華が咲きました。

『むさし野』での宴会、おいしい料理、カラオケ、と盛り上がりとても楽しい一泊の親睦旅行でした。センターの接待係がいまいちだったかな・

しかし、気持ちよく夜も更けていきました。

## おもいで

伊藤 孝美 (中津川出身)

昭和38年暮れ、ふる里の同郷出身栄子と結婚した。

旧姓高橋の私は、義父の承諾を得て妻の姓に変えた。その後に同級生より養子縁組ならともかく男1匹姓など変えるべきではないと叱られてしまった。私なりに理由があったのだが・・・

ところで第二の人生の出発の新所帯は、墨田区菊川3丁目で、2階建てアパートの四畳半か六畳間のトイレ・炊事場が共同貸家が普通で、又、賃料は畳1畳1300円ほどで、月額八千円であった。この金額を元にして、斡旋量・権利金・敷金などの名目で五倍の四万円の支出であった。

豊かになった昨今の新所帯は、始めから広いマンション住まいで、時代とは言え誠に羨ましい限りである。それにしても、昭和35年頃からの日本の経済発展は著しく、衣食住の中で住はともかく衣・食に困らないと言う時代は、日本史上初めてらしく、それもほんの未だ四、五十年ほどである。

新婚当時、買い物、映画鑑賞らは、錦糸堀～築地間を走る今は無き、36系統の都電を利用し、錦糸町で遊んだ。その頃、都電の料金は、片道15円であった。ちなみに、銭湯の料金は23円で映画鑑賞料金は、封切館で350円であった。

アパートは交通の多い賑やかな新大橋通りに面していたが、たまには三つ目通りを南に歩き、墨田工業高校・深川第一中学校の前を通り過ぎ、小名木川を渡り清澄橋通りに入る。白河バス停留所よりバスに乗り秋葉原・御徒町へ買い物方々遊びに向かう。バス停で東方より来るバスを待つのだが、諸々の車が扇橋を上り、下りて来る。小さい丘の様な橋の向こうは何も見えず、目当てのバスはお腹を見せる様に勢い良く橋を上り、すぐお辞儀をするように車首さげ早々に駆け下りて来る。

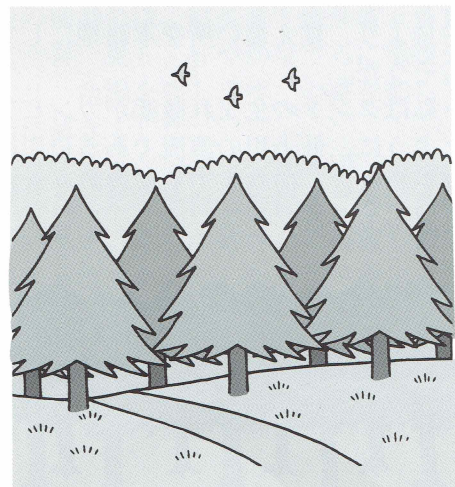
妻は言った。『あのバスはどんな町から来るのだろうか?』そんな問い掛けに私は無垢さを感じてこう答えて笑った。『丘の彼方の空遠く、幸い人の住むと言う』

それから約10年後の昭和49年8月、偶然にも「幸い人の住む」砂町に転居する事になった。

新築の家への嬉しさに胸躍らせて!子供たちは、初対面等に関わり無く朝から晩まで、私道を遊び場として、毎日笑いと歓声の家々にこだましていた。妻も私も「幸い人の住む」砂町は明るくこの砂町への転居を心より喜んだ。

妻は、砂町銀座商店街が近く、物価が東京一の廉価に大喜びし、また同銀座で催す七夕の季節には縁者を招待し、その子供を喜ばせては満足し微笑んでいた。

砂町へ転居して早や三十年、子供も独立し去り、波高き生活にも耐え、夫婦ふたりして年金生活。第二の故郷で、平凡に気ままな余生を過ごそうと思っている。



## 東京の小学生、山形米「はえぬき」を作る

国分 秀高（萩生出身）

3月末にJAおきたま青年部飯豊地区添川支部より、小学校に稲作りをするので、飯豊会の方にアドバイザーを求められ、新宿区立大久保小学校、同落合第二小学校5年生が対象、両校で66名の児童で4月21日スタート、児童に「こめどころ」飯豊町を紹介し、土作りより収穫までの経緯と説明をする。

『稲作りマニュアル』を渡し、種蒔きの実習へ。品種はもちろん「はえぬき」です。

6月12日田植えの実習・9月18日稲刈り・

稲の乾燥のため棒掛け実習・種蒔き後より、アドバイザーとして2週間ごとに、飯豊会より2人訪問して巡回指導しました。

11月5日収穫祭で児童・保護者・先生方町の指導者・アドバイザーらが参加し、10時より児童の稲作り体験談を聞いたり、質問に答えたりした。白いご飯を食べるまでの過程は大変な事だと感じたようでした。「はえぬき」は全国7位の美味しさだそうです。



## 第二のふるさと「京都」

伊藤 董男<sup>ただお</sup>（椿出身）

ふる里山形を後にして早や50年の月日が過ぎました。

あの頃は、まだ交通の利便も悪く、長時間揺られて京都に降り立ち、その言葉のニュアンスに驚きました。『おこしやす』『おおきに』特に女性のやさしい、のんびりとした話し方に聞きほれてしまいました。最近ではあまり耳にする事がなくなって来ました。

特に『おこしやす』・・・時の流れかな？

笑い話の一つに、友達と市電を下車する時に『おちる、おちる』と叫んだもので、周りの乗客が網棚を見上げて（キョロ、キョロ）、あわてて『おります』と言い直し笑いとなりました。又、部屋の戸を閉める事を田舎では戸を立てると言いますね。今だに忘れられない思い出となって居ます。

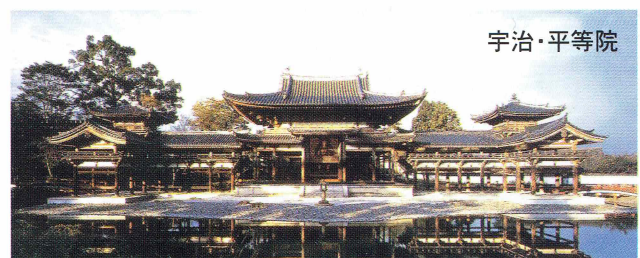
私の住んでいる京都府宇治市を紹介させていただきます。世界遺産で有名な平等院をはじめに《十円玉の裏》をみてください。宇治上神社、紫式部の源氏物語《宇治十帖》又、宇治茶の名産地でもあります。玉露・抹茶、三月に入ると茶の木に覆いを

掛けて、霜よけを施し5月にお茶摘みをして製造方法も（手もみ）にして針の様に仕上げます。甘いもったりとしたお茶に変わります。最高級品です。機械製造方法も大量に行っています。

私も永年染織に携わった会社の定年を迎え、今は野菜作りや、神社・仏閣を探索し足を運んでいます。また、週1回囲碁、会社のOB会、京都山形県人会等で頑張っています。山形の幼少の頃が懐かしく、東京飯豊会、小学校・中学校等の同級会へと出席する事が楽しみとなって来ました。

旧友に逢い、昔話しに想いを深め健康を維持し、みなさんと御逢い出来るように願っています。

宇治・平等院





まつり みやこ  
43回総会イベント「祭 都ショー」の熱唱



物産館の皆様 出店有難うございます



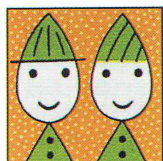
飯豊の雄大な山並みと  
白川湖を望みワレツシ



〒999-0423  
山形県西置賜郡飯豊町大字須郷421-1  
TEL. 0238 (78) 0010 (代)  
FAX. 0238 (78) 0020  
URL: <http://www.nakatugawa.co.jp>



いい味 いい旅 いいでまち  
ふるさとのおみやげ・地元産直売所



道の駅 いいで めざまみの里観光物産館

〒999-0606 山形県西置賜郡飯豊町大字松原1898  
TEL.0238(86)3939(代) FAX.0238(86)3030(代)  
<http://www.mezami113.com/>

●編集部より

第3号を皆さんのお手元にお届けの運びとなりました。1号から3号までのご寄稿の内容は、圧倒的にふるさと、親、兄弟に寄せる想い、過去から現在までの自分の生き方が、大部分でした。巧拙の口を挟む余地のない、自身の真実が述べられております。  
次号は45周年記念号の予定です。バライティー豊かな作品を、多数のご寄稿をお願いいたします。

高橋 記

●原稿送付先・問合せ先ご案内

内容・形式等は問いません。都合により、訂正・加筆・削除・次号への掲載等お許し願います。

◎ 広報部長 高橋正孝

〒二六〇〇〇一 千葉市美浜区真砂1-11-12-1105  
電話・FAX 043(278)5229

◎ 東京飯豊会事務局

〒三五〇一三六 川越市下新河岸69-66  
電話・FAX 049(244)3940

志田義雄